

カメルーンにおける治安・平和部隊 国際学校（EIFORCES）の訓練と 体制の強化



ファクトシート

日本補正予算：2021年3月～2022年3月

予算：30万米ドル

主なパートナー：カメルーン防衛省（MINDEF）、
経済・計画・地域開発省（MINEPAT）、日本大使館

目的

このプロジェクトでは、平和安定化に関する専門知識を必要とするカメルーンおよび近隣諸国出身の保安要員に対し、有事に向けた備えの維持と強化を行います。これにより、軍隊、保安要員、民間人を育成し、平和支援活動に関する任務、安定化と危機からの復興といった局面が統合された状況への対処が可能となるよう訓練を行うことで、カメルーンが人間の安全保障、平和の構築と維持に関する国家・地域的な、そしてアフリカ全体のアジェンダに対して、より適切に対処できるようになることを目指します。

プロジェクトの成果

成果1：人間の安全保障実現に向けた戦略立案および実行能力、ならびに危機からの回復および持続的な平和のための協調的活動を促進すること

成果2：EIFORCESの調査能力を強化すること

SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標16に貢献します。



From
the People of Japan

開発課題

カメルーンは3つの差し迫った脅威とリスクが示す治安の悪化傾向から継続的に影響を受けています。

まず、反政府勢力ボコ・ハラムがまだ活動を続けており、深刻な被害をもたらしています。断続的に行われる自爆攻撃、カメルーン国内での難民や国内避難民の大移動などです。

次に、中央アフリカ共和国（CAR）で時折再開される暴力が、カメルーンにも波及的に効果を及ぼしています。

最後に、カメルーンは上述した治安問題と二重の人道危機に対処する一方で、2016年後半から始まった国内の紛争にも対処しなければなりません。国内の2つの英語圏では暴動が発生し、そこでは活動家が、暴力または国家機関の拒否による政治システムの変更を目指して選挙に立候補しています。

武装した分離主義運動は、過去数カ月にわたって民間人、特に子どもをターゲットとし、生徒や教師を誘拐しているほか、クンバやクンボにある教育施設への放火も行っています。